地域密着型サービス評価の自己評価票

（ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

（取り組んでいきたい項目：（〇印）欄）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域での安心した暮らし、柔軟な支援を理念にしている。		
2	〇理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・スタッフ室に運営理念を明示しており、常に職員が確認できるようにしている。 ・毎日のミーティングで意見を出し合い、変更があれば連絡帳への記入や口頭により職員全員に伝達できている。 ・管理者は、常に理念に添うケアを実践できるよう職員と話し合い前向きに取り組んでいる。		
3	〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・H.19.4に「2007．たんぽぽフェスタ」を実施し、家族、地域の方々に来ていただき、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みを理解してもらったと思います。		
２．地域との支えあい				
4	〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・「たんぽぽだより」の配布を行うほか利用者手作りの「お寿司、おはぎ」などを近隣の方々に配り、交流のきっかけづくりを積極的に行うなど、日常的に関係を高める働きかけを行っている。	〇	・隣近所の方より災害時にはすぐにホームに行けるようにフェンスに入り口を設け、お互いに出入りができるようにしてほしいとの要望があります。
5	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・中学生の職業体験の受け入れなど積極的に交流を図っている。 ・利用者、職員と坂野幼稚園児達と折り紙の交流やクリスマス会などでプレゼントの交換等も行っている。 ・老人会へはお誕生会に参加し、地元のお年寄りとの交流が図られている。	〇	・今後は地域活動として、清掃ボランティア等で地元の人々との交流に取り組んでいきたいと思います。

	項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	**〇事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		・近隣の住民の方より、介護、医療の相談を受けており、その都度、グループホーム、認知症についての説明をさせてもらっている。また、他のグループホームの実習生の受け入れも積極的に行っている。	〇	・「たんぽぽだより」を配布時独居老人の安否確認とコミュニケーションを図りたいと考えています。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	**〇評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		・運営者、管理者、職員全員が一年一年評価を真に受けとめて意義を理解し、改善すべき点は改めている。		
8	**〇運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		・運営推進会議で出た意見を取り入れ、サービス向上のために、避難訓練や地域老人会への参加を始めたり、事故などの危機管理について、職員全員が危機感を持ち介護業務をするようになった。		
9	**〇市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		・介護保険課、福祉事務所との連携を密に取り、協力関係を築いている。また、福祉事務所により月一回利用者の面談があり、ホームの実状やケアサービスを伝えている。		
10	**〇権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		・社会福祉協議会より学ぶ機会があり、今後必要ある方には活用できるよう支援したい。		
11	**〇虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている		・研修に積極的に参加し、職員全員が把握できるように報告会を開いている。 ・傷や内出血等があると、どのような小さなことでもノートに記録し、いつ、どのような時にできたかを職員間で話し合うようにしている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をとって丁寧に説明している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、本人を交えて家族等と対応方針を相談している。 ・本人と家族の希望を十分に把握して、本人が今後も幸福に暮らせるような方法を考えながら取り組んでいる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・面会時、変化時など、その都度家族に連絡し、状態説明を行い、対応の相談をしている。 ・金銭管理は出納伝票に記入し、ご家族にサインをいただいている。 ・職員の異動については、家族より話しがあった時には、説明してきたが定期的にはしてこなかった。	○	今後、職員の異動があれば、その都度文書にてご家族に報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情処理係を設けており、家族の意見を反映できるようにしている。 ・出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている。 ・玄関に苦情箱を設け、いつでも意見を言えるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日のミーティング時に意見を出し合っている。 ・管理者は職員と一緒に業務をしているため、意見を聞く機会が多く、よって運営者にその旨を伝えている。 ・管理者は、すべての業務をしている為、業務の見直し、改善などその都度職員の意見聞き対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者、家族の希望に添った勤務態勢の調整ができている。 ・現在の業務状況は、6:00～18:00　4名～5名と夜間1F、2Fを1名で対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・各ユニットの職員（調理係、パート職員）は固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。 ・新しい職員が入る場合も利用者にきちんと紹介している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員が研修を受講できる体制をとっている。 ・講習、研修に参加した職員は出張報告書を作成し、他の職員に内容を報告している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・関連の事業所と交流を図っている。 ・市内や市外のグループホームとの交流や意見交換による親睦を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・管理者は、各自のストレスや背景をよく理解しており、運営者にその都度報告し対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人が職場内で活かせるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前に本人からよく聴く機会を設け、本人の希望に添った対応をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族との話をよく聴く機会を設け、十分な情報交換を行っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や顔見知りになることで信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・サービス利用前に施設見学を行ってもらい、本人、家族が納得して利用できるように工夫している。又、スタッフも自宅に出向いてコミュニケーションを図っている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・畑仕事を指導、助言してもらったり、調理時に手伝ってもらうようにしている。 ・職員は常に入所者に対しての謝意は伝えている。 ・日常的な家事を行ってもらうことで、お互いに支え合う関係ができている。 ・利用者が作成したチリ箱をテーブルに置き、食事毎に利用させてもらって大変役に立っている。		
28	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族と協力関係を持ち、ともに利用者を支えていくようにしている。		
29	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族からの情報収集に努め、常に入所者の状態は家族に把握してもらい、お互いによい関係が築けるように支援している。 ・利用者よりお嫁さんが面会に来てくれない等との訴え時には家族にさりげなく訪問をすすめて支援している。		
30	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会、手紙、電話などなじみの人との関係がとぎれないように希望に添った支援を行っている。 ・特に面会時間は決めず、いつでも面会できるようにしている。		
31	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・レクリエーション等、入所者同士が関わり合いをもてる機会をつくり、孤立を防いでいる。 ・職員は入所者同士が助け合いながら過ごせるようにいつも目配り、気配りを行っている。 ・トラブル発生時は職員が中に入り、不安や支障が生じないようにしている。 ・職員が利用者一人ひとりを気づかって常に声をかけ孤立しないように見守っている。		

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービス利用しなくなっても家族の方が遊びに来ている。 ・他の事業所へ移られた方にも利用者と一緒に遊びに行くようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めている。		
34	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所者全員の生活歴、職業歴などを把握し、それを活かした活動を行っている。		
35	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日、状態を記録し、職員全員が現状を把握し、必要な介護を提供している。 ・手芸、本読み、テレビ観賞、入浴、足浴、清拭、臥床、会話、マッサージ、買い物、外出、レクリエーション等、一日の過ごし方は一人ひとり違っていることを認識している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・毎日ミーティング、カンファレンスを行い、家族、本人の意向に添った介護が提供できるように職員間で話し合っている。そのことを連絡帳に記入し、職員全員が把握できるようにしている。		
37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎日のミーティング時により緊急に対応が必要な場合は、本人、家族の許可をもらい、要望に応じて見直しを行っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日日誌に状態を記録し、個別記録にも残している。 ・引き継ぎにより職員全員が把握できるようにしており、連絡事項は勤務時間以前の確認は義務付けている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスの利用をできるようにグループホームの多機能化を強化している。 ・デイサービスの利用を始めている。 ・家族より、デイサービスの利用の希望があれば、すぐに支援できるように勤務を見直している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアを積極的に受け入れている。警察、消防、教育機関などとも連携がとれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・本人の希望や体調に応じて訪問美容サービスを利用してもらっている。 ・1Wに2回マッサージに来てもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターより10名程の見学があり、ホームとの協働について話し合った。また、グループホームの理解が得られた。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に適切な医療が受けられるように通院介助、点滴の付き添い、往診依頼などの支援をしている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・かかりつけの専門医等にホームの特徴を十分に説明し、理解のもと一人ひとりの心身の状態にあった対応策を相談し、指示や助言をもらっている。 ・精神科医に認知症に関する診断や治療を受けられるように支援している。		
45	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・毎週水曜日に訪問看護の看護師による医療連携体制を行っており、相談や日常の健康状態についての助言をもらっている。 ・看護職員を配置している。		
46	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入所者が体調が悪化しすぐに入院が必要になった場合には、すぐに入院できる体制をとっている。 ・入院時には常時関係医療機関との入所者の情報交換を行っている。又、家族とも情報交換をしながら回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人、家族等と話し合い、かかりつけ医と相談している。 ・本人にとってどうあったら良いのかホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針をスタッフで話し合い全員で共有している。		
48	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・本人の気持ちを大切にしつつ、家族とも話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。 ・急変時にはすぐに対応できるよう、医療機関と密に連携を図り対応している。		
49	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他の施設に移られた場合にも、これまでの生活環境が変わらないようにきめ細かい連携を心がけている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
１．その人らしい暮らしの支援				
（１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・一人ひとりにさりげない介助を心がけている。本人の前では記録を取っていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・さりげない介護を心がけ、自立できることはできるだけ手を出さず、見守り、声かけにより、自発的に行えるように職員は支援している。 ・自分でパッド交換できるも1日1回の為、尿臭が強く不潔なので朝夕2回の交換を説明し、納得できると交換する。しかし、納得できないと交換しない日もあり、その都度根気よく支援してい		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は常に見守りながら業務を行っている。入所者の自由に過ごしてもらっている。行事の参加等も本人の希望に添って行っている。外出も同様に家族、職員が常に付き添って支援している。		
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	・季節にあった衣類を選択し、適切な着衣ができるように介助している。入所者の希望に添った理髪店、美容院に行くようにしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事には季節の物を取り入れている。お祝い時には祝い膳を提供している。食事準備や片付けなど能力にあった手伝いを一緒にしてもらっている。 ・職員も一緒に食事をいただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・毎月初めに思考調査を行い、希望に添ったメニューを係の職員が献立づくりに活かしている。 ・お粥食、きざみ食、パン食、代用食など入所者の状態に適している食事を提供している。またおやつなども希望に添って提供している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・入所者一人ひとりの排泄パターンを記録、把握し、そのときの状態により個別に対応できている。排泄チェックシートを活用し、自立排泄ができるように下剤の服用調節を行ったり、牛乳等で排泄の支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・浴槽の使用やシャワーの使用、入浴時間、順番など一人ひとりの希望にあわせた入浴介助が行えている。以前は夜間の入浴介助を行っていたが利用者の身体能力の低下や夜間希望する人がいない為、行っていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・天気の良い日は日光浴をしたり、活動をする事によって夜間安眠できるように援助している。不眠者や睡眠時間が短い入所者に対しては記録に残し、必ず引き継ぐようにしている。 ・一人ひとりの睡眠パターンを把握し、眠れない人には、お茶とお菓子を提供し、入眠できるように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・入所者本人の生活歴を活かした家事手伝いや、手芸等を負担にならないように行ってもらっている。 ・調理師経験者には、調理のお手伝いをすすんでしてもらっている。 ・毛糸を利用しタワシを作ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常の金銭管理を本人が希望された場合は、支援している。 ・あずかり金については家族、本人の了解のもと、保管し、金銭の使用に対しては購入ノートに記入した物を家族に面会時にチェックしてもらい、確認印をしてもらっている。 ・お金を所持している利用者は、1Wに2～3回近所へ買い物に行っている。 ・隣のJAで預金を引き出し使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・入所者の希望時は外出介助を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・入所者の行きたい場所を聞き、家族と連絡を取り、自宅に帰ったり、ご近所めぐりとして散歩をしている。ケアの一貫として外出レクを多く設けている。 ・月に何回かは外出の機会を設けて支援している。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	**〇電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望時にはその都度プライバシーに配慮した支援をしている。 ・家族が県外にいる方は、常にお互いを心配しているため、訴えがあればすぐに支援している。		
64	**〇家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は設けず、いつでも自由に面会できるようにしている。 ・面会が何回にもなると、職員も馴染みになり、本当に気軽く訪問してもらっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	**〇身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束に関しては職員全員の理解のもと行っていない。拘束を行わない介護計画を立案実行している。 ・拘束が必要な場合、事前に家族に同意をもらい同意書を作成している。 ・徘徊者などは、事故等の危険があるも、家族と話し合い拘束はせず、職員全員で見守り続ける支援をしている。		
66	**〇鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・常に職員は入所者の様子が見られる場所におり、業務を行いながら徘徊、外出に気を配っている。各部屋には鍵を設置していない。各個人の部屋の中からのシルバーカー、杖による施錠には気をつけている。徘徊、帰宅願望の強い入所者に対しては特に見守り、傾聴助言による気分転換、精神の安定を図っている。 ・冬以外の玄関は常時開けてあり、当然鍵はかけていません。居室も同様です。出入りは自由にできます。		
67	**〇利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中は職員が常に一人はホールを見守れる位置にいることを職員全員が理解し、互いの連携を図っている。夜間は入所者の動き（特に外出）が把握できる位置にスタッフ室があり、また入り口にベルを設置することで職員がどこにいても外出を把握できるようにしている。		
68	**〇注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・夜間杖で入り口の戸を開けないようにする利用者には夜間のみ杖を預かっている。 ・ベッドよりの転倒時の危険を防ぐため位置替えをするなど、常に本人の状態に応じた取り組みをしている。		
69	**〇事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・緊急時の各マニュアルを作成し、職員全員が把握している。 ・常に事故防止に取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	**〇急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員全員で把握している。		
71	**〇災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急時の各マニュアルを作成し、職員全員が把握している。避難訓練を実施している。 ・運営推進会議でも話し合いを持ち、地域の人々の協力が得られるように災害対策を行った。		
72	**〇リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・事前に対応策を家族には説明している。 ・運営推進会議で「事故等の危機管理に関する取り組みについて」の話し合いを持った。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	**〇体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタルチェックを行い、ミーティング時に申し送り、必要な情報は職員全員で把握し、注意し、記録に残している。 ・体調の変化や異変時にはすぐにかかりつけ医に連絡し、対応している。		
74	**〇服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各自ファイルに薬の内容を明記し、各職員が用法を理解している。必ず服薬確認するようにしている。 ・院外処方の為、処方時には薬剤師による説明がある。また、お薬手帳には薬の名前と説明が入っており介護者にとって分かりやすい為、服薬支援はきちんとできている。		
75	**〇便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・調理担当者が入所者の状態にあった献立を立てている。食事介助時の水分補給や、レクリエーション等による体を動かす機会を設けている。 ・便秘、下痢などの排便状態を把握し、下剤の服用調節を行っている。牛乳飲用も行っている。		
76	**〇口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎日個別に口腔ケアの声かけと介助を行っている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を毎食後記録するようにしている。 ・各個人の体調により、その人の状態にあった食事を提供している。 ・食事介助時は水分補給を介助者は心がけている。 ・夜間は巡回時水分補給介助している。 ・スポーツドリンク等も提供している。		
78	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症マニュアルを設置し、感染症出現時には、それに沿った対応ができるようにしている。また、ホーム内でも研修を行っている。 ・特に予防に取り組んでおり、感染症は出現していない。		
79	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・常に殺菌消毒を行い、清潔を保持している。食品は毎日新鮮な食材を購入している。		
	２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり			
80	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周り、庭に草花を植えており、親しみやすい表札を掲げている。日中は門、玄関を開放している。		
81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・和室、ユーティリティーを設けており、こたつの使用による雑談も行え、入所者同士で自由に過ごせる場所の確保ができている。 ・常に共有空間には生花や季節感のある飾り付けをしている。		
82	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・あらゆる共有空間に椅子、ソファーを設置し、一人でくつろげる空間の確保ができている。		

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた家具、調度品をそのまま使用し、畳部屋、フローリング部屋など、個々にあわせた環境づくりをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・各部屋は換気扇の使用や窓を開けるなどして換気を行うようにしている。冷暖房はその都度適温を保つようにしている。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すり、エレベーター、玄関のスロープ、座シャワーなど一人ひとりにあわせた環境が整えられている。 ・車椅子、介護自動車を常備使用している。 ・電気調理器を設置しており、調理時に安全で、できるだけ自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・常に電気をつけ空間を明るく保ち、入所者に分かりやすいようにしている。 ・外の光が入るように日中は窓を開け、認識間違いがないようにしている。 ・個室入口には、写真を飾り自室が分かるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・広い芝生の庭で外気浴を日常的に楽しんでいる。 ・庭にはベンチ、花壇を設け季節の草花を植えているし、裏庭には畑を作り、季節の野菜を入所者で栽培するようにしている。 ・ベランダにも花を設置し、朝夕、利用者が水やりを日課にしている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目			最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・利用者様が張り合いや楽しみごとのある暮らしがおくれますように支援しています。
1）健康レクリエーション　　　　2）作業レクリエーション　　　　3）調理レクリエーション
4）おやつレクリエーション
以上のレクリエーションを毎日することにより心と身体（頭）の健康づくりに役立っています。